

第2章 交通事故の現状等

1 交通事故等の現状

(1) 前計画策定以降の狛江市における交通環境の変化

狛江市における道路環境の変化としては、都市計画道路である調布都市計画道路 3・4・4 号線（中和泉一丁目地区部）（平成 23 年度）、松原通り（平成 24 年度）の開通や市外となるものの京王線の地下化など、車両の流れに影響する出来事がありました。

今後の見通しとしては、喜多見駅周辺の電力中央研究所前の一中通りの整備など一部の都市計画道路の整備が進むなど、今後も道路状況が変化することが想定されます。

なお、道路交通法及び関係政令については、平成 24 年4月から運転経歴証明書等に関する規定、平成 25 年 12 月から無免許運転の罰則等に関する規定、平成 26 年6月から一定の病気等に関する規定、平成 27 年6月から危険行為を繰り返した場合の自転車運転者講習等に関する規定が施行され、同月に臨時認知機能検査に関する規定が公布されるなど、改正が行われています。

また、「自動車の運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律」（平成 25 年法律第 86 号）が平成 26 年5月から施行され、危険運転致死傷罪に係る規定の整備が行われています。

(2) 交通事故の発生件数及び死傷者数

市内の交通事故の発生件数・死傷者数の状況について、過去5ヵ年(平成 23～27年)は下表のとおりとなっています。

平成 22 年は 211 件の交通事故がありましたが、平成 27 年においては 128 件となり、39.3%減少しました。地域での交通安全活動や警察などによる交通安全教育、道路交通法の改正などにより、市内全体に交通安全への意識がより高まっていることが要因に挙げられます。

また、事故件数・負傷者数が大幅に減少し、平成 26 年・平成 27 年については、死亡事故 0 件を達成することができ、東京都内で 2 年連続死亡事故ゼロを達成した自治体は狛江市のみとなっています。

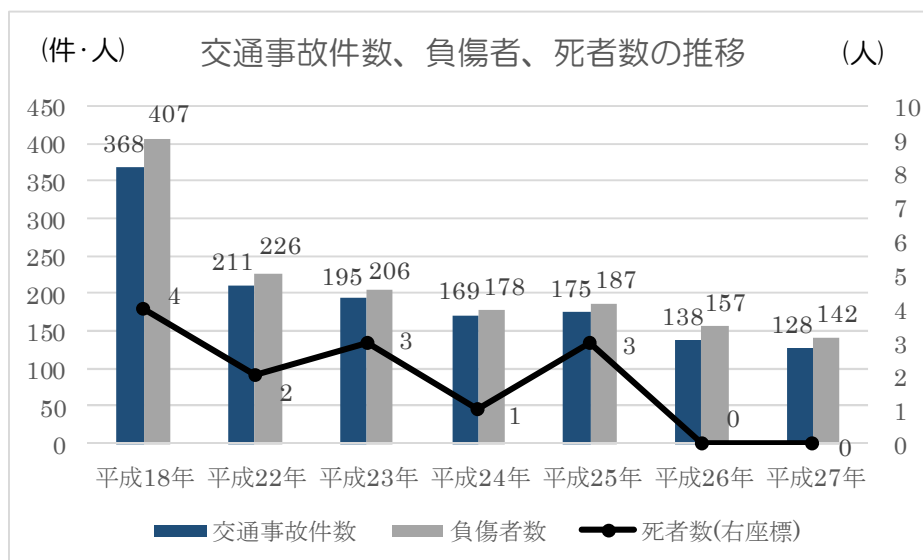
■市内の過去5ヵ年等の交通事故件数及び死傷者数の推移

狛江市		平成 18年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	減少率
交通事故件数		368件	211件	195件	169件	175件	138件	128件	39.3%
死傷者	死者数	4人	2人	3人	1人	3人	0人	0人	100.0%
	負傷者数	407人	226人	206人	178人	187人	157人	142人	37.2%
	合計	411人	228人	209人	179人	190人	157人	142人	37.7%

※「減少率」= (「平成 22 年の指数」 - 「平成 27 年の指数」) / 「平成 22 年の指数」

※数値は、各年の「東京の交通事故」(警視庁交通部発行)より参照

※死者の数値については、交通事故発生から 24 時間以内に死亡したもの



なお、平成27年における東京都の23区と26市の交通事故の発生件数・死傷者数の状況については、下表のとおりとなっています。

狛江市はこのうち発生件数、千人当たり発生件数、死傷者数及び千人当たり死傷者数において、少ない方から2番目に位置しています。

■平成27年中の区・市の交通事故発生状況

各区市	人口	平成27年中									
		発生件数		千人当たり発生件数		死傷者数				千人当たり死傷者数	
		発生件数	順位	千人当たり発生件数	順位	死者	負傷者	合計	順位	千人当たり死傷者数	順位
千代田区	56,873人	721件	32	12.68件	49	3	840	843人	34	14.82人	49
中央区	138,088人	798件	35	5.78件	48	1	928	929人	35	6.73人	48
港区	240,585人	1,315件	44	5.47件	47	5	1,515	1,520人	44	6.32人	47
新宿区	327,712人	1,010件	39	3.08件	39	7	1,173	1,180人	39	3.60人	39
文京区	207,413人	512件	25	2.47件	27	3	573	576人	24	2.78人	27
台東区	189,795人	741件	33	3.90件	43	1	839	840人	33	4.43人	43
墨田区	258,423人	642件	31	2.48件	28	3	727	730人	31	2.82人	28
江東区	493,952人	1,281件	43	2.59件	29	9	1,464	1,473人	43	2.98人	30
品川区	372,077人	752件	34	2.02件	13	4	835	839人	32	2.25人	12
目黒区	269,689人	593件	29	2.20件	18	2	676	678人	29	2.51人	16
大田区	707,455人	1,470件	46	2.08件	14	11	1,674	1,685人	45	2.38人	14
世田谷区	874,332人	1,944件	49	2.22件	20	3	2,265	2,268人	49	2.59人	19
渋谷区	217,008人	899件	36	4.14件	45	3	989	992人	36	4.57人	44
中野区	316,625人	525件	27	1.66件	4	4	595	599人	27	1.89人	4
杉並区	547,165人	1,449件	45	2.65件	32	7	1,735	1,742人	46	3.18人	33
豊島区	275,507人	498件	24	1.81件	8	4	564	568人	23	2.06人	9
北区	338,084人	514件	26	1.52件	1	4	575	579人	25	1.71人	1
荒川区	209,087人	352件	16	1.68件	5	4	392	396人	14	1.89人	5
板橋区	544,172人	1,193件	40	2.19件	16	6	1,363	1,369人	40	2.52人	17
練馬区	714,656人	1,238件	42	1.73件	6	8	1,391	1,399人	41	1.96人	7
足立区	674,111人	1,857件	48	2.75件	34	6	2,140	2,146人	48	3.18人	32
葛飾区	449,527人	949件	37	2.11件	15	5	1,079	1,084人	37	2.41人	15
江戸川区	680,262人	1,236件	41	1.82件	9	10	1,393	1,403人	42	2.06人	10
八王子市	562,572人	1,660件	47	2.95件	36	3	1,902	1,905人	47	3.39人	36
立川市	179,090人	611件	30	3.41件	42	1	695	696人	30	3.89人	42
武蔵野市	142,138人	370件	17	2.60件	30	2	404	406人	15	2.86人	29
三鷹市	182,092人	400件	18	2.20件	17	0	473	473人	19	2.60人	20
青梅市	137,052人	425件	20	3.10件	40	1	468	469人	18	3.42人	37
府中市	254,551人	492件	23	1.93件	12	1	591	592人	26	2.33人	13
昭島市	112,727人	340件	13	3.02件	38	0	410	410人	17	3.64人	40
調布市	224,191人	541件	28	2.41件	26	2	618	620人	28	2.77人	26
町田市	426,648人	968件	38	2.27件	22	5	1,115	1,120人	38	2.63人	22
小金井市	117,427人	218件	6	1.86件	11	2	242	244人	6	2.08人	11
小平市	186,958人	424件	19	2.27件	21	4	486	490人	21	2.62人	21
日野市	180,975人	427件	21	2.36件	25	0	489	489人	20	2.70人	23
東村山市	151,412人	264件	11	1.74件	7	0	294	294人	9	1.94人	6
国分寺市	119,379人	217件	5	1.82件	10	0	235	235人	4	1.97人	8
国立市	74,558人	221件	7	2.96件	37	0	258	258人	7	3.46人	38
福生市	58,553人	255件	9	4.36件	46	1	299	300人	10	5.12人	46
狛江市	79,096人	128件	2	1.62件	2	0	142	142人	2	1.80人	2
東大和市	86,162人	227件	8	2.63件	31	2	259	261人	8	3.03人	31
清瀬市	74,374人	123件	1	1.65件	3	2	132	134人	1	1.80人	3
東久留米市	116,494人	342件	15	2.94件	35	4	370	374人	13	3.21人	35
武蔵村山市	72,092人	291件	12	4.04件	44	1	344	345人	12	4.79人	45
多摩市	147,486人	340件	13	2.31件	24	1	405	406人	15	2.75人	25
稲城市	86,594人	198件	4	2.29件	23	3	234	237人	5	2.74人	24
羽村市	56,604人	152件	3	2.69件	33	0	181	181人	3	3.20人	34
あきる野市	81,697人	263件	10	3.22件	41	2	315	317人	11	3.88人	41
西東京市	198,267人	440件	22	2.22件	19	1	502	503人	22	2.54人	18

※人口については、東京都のホームページ「東京都の統計」より平成27年1月1日時点のものを引用

※警視庁からの情報提供より引用

(3) 年齢別死傷者数の状況

市内の交通事故による年齢別死傷者数の状況について、過去5ヵ年(平成 23～27年)は下表のとおりとなっています。

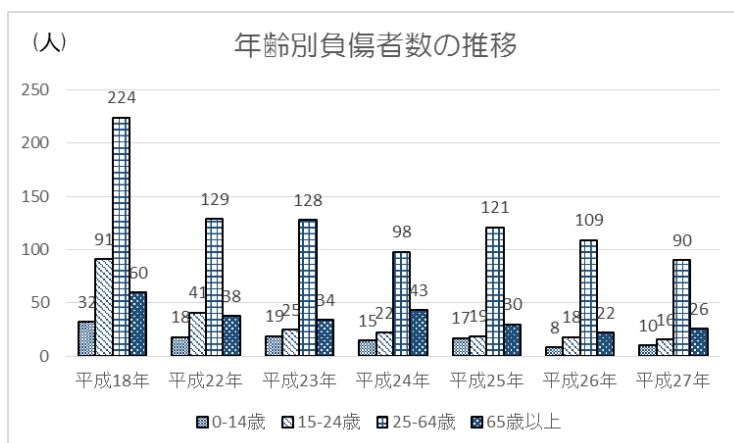
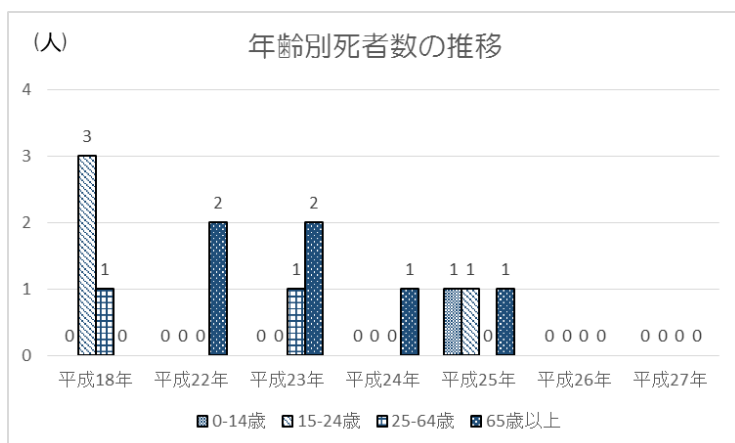
平成 22年と平成 27年の死傷者数の比較では、0～14歳は44.4%減少、15～24歳は61.0%減少、25～64歳は30.2%減少、65歳以上は35.0%減少で、全体では37.7%の減少となっています。平成 18年と平成 22年の推移に対して、減少率はあまり上がっていませんが、死傷者数は継続して減少しています。

■市内の過去5ヵ年等の年齢別死傷者数の推移

狛江市		平成 18年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	死傷者 減少率
0-14 歳	死者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	44.4%
	負傷者数	32人	18人	19人	15人	17人	8人	10人	
15-24 歳	死者数	3人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	61.0%
	負傷者数	91人	41人	25人	22人	19人	18人	16人	
25-64 歳	死者数	1人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	30.2%
	負傷者数	224人	129人	128人	98人	121人	109人	90人	
65歳 以上	死者数	0人	2人	2人	1人	1人	0人	0人	35.0%
	負傷者数	60人	38人	34人	43人	30人	22人	26人	
死者数合計		4人	2人	3人	1人	3人	0人	0人	37.7%
負傷者数合計		407人	226人	206人	178人	187人	157人	142人	

※「減少率」= (「平成 22年の死傷者数」-「平成 27年の死傷者数」) / 「平成 22年の死傷者数」

※数値は、各年の「東京の交通事故」(警視庁交通部発行)より参照



次頁表は年齢別の死傷者の構成割合について、東京都全体と狛江市を比較したものです。狛江市におけるおおむね0～14歳、65歳以上の死傷者の構成割合は東京都全体に対して狛江市のほうが高く、15～24歳、25～64歳の死傷者の構成割合は、東京都より低い状況です。

■直近5カ年等の年齢別死傷者数の推移（東京都・狛江市比較）

東京都		平成 18 年		平成 22 年		平成 23 年		平成 24 年		平成 25 年		平成 26 年		平成 27 年	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
0 -14 歳	死者数	3	6.9	4	6.5	1	6.8	7	6.8	3	6.6	6	6.2	7	5.8
	負傷者数	5,807	%	4,029	%	3,942	%	3,742	%	3,218	%	2,681	%	2,314	%
15 -24 歳	死者数	34	16.9	21	13.9	20	13.5	12	12.6	16	12.1	16	11.6	10	11.2
	負傷者数	14,217	%	8,673	%	7,873	%	6,945	%	5,911	%	5,023	%	4,476	%
25 -64 歳	死者数	143	66.2	110	67.6	106	68.0	92	68.2	77	68.3	85	69.0	86	69.1
	負傷者数	55,704	%	42,011	%	39,563	%	37,408	%	33,408	%	29,828	%	27,627	%
65 歳 以上	死者数	83	10.0	80	12.0	88	11.7	72	12.4	72	13.0	65	13.2	58	13.9
	負傷者数	8,389	%	7,415	%	6,762	%	6,742	%	6,318	%	5,680	%	5,514	%
死者数合計		263	-	215	-	215	-	183	-	168	-	172	-	161	-
負傷者数合計		84,117	-	62,128	-	58,140	-	54,837	-	48,855	-	43,212	-	39,931	-

※東京都の数値は、「特別区計」、「市部計」「郡部計」「島部計」「高速隊」の合計

狛江市		平成 18 年		平成 22 年		平成 23 年		平成 24 年		平成 25 年		平成 26 年		平成 27 年	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
0 -14 歳	死者数	0	7.8	0	7.9	0	9.1	0	8.4	1	9.5	0	5.1	0	7.0
	負傷者数	32	%	18	%	19	%	15	%	17	%	8	%	10	%
15 -24 歳	死者数	3	22.9	0	18.0	0	12.0	0	12.3	1	10.5	0	11.5	0	11.3
	負傷者数	91	%	41	%	25	%	22	%	19	%	18	%	16	%
25 -64 歳	死者数	1	54.7	0	56.6	1	61.7	0	54.7	0	63.7	0	69.4	0	63.4
	負傷者数	224	%	129	%	128	%	98	%	121	%	109	%	90	%
65 歳 以上	死者数	0	14.6	2	17.5	2	17.2	1	24.6	1	16.3	0	14.0	0	18.3
	負傷者数	60	%	38	%	34	%	43	%	30	%	22	%	26	%
死者数合計		4	-	2	-	3	-	1	-	3	-	0	-	0	-
負傷者数合計		407	-	226	-	206	-	178	-	187	-	157	-	142	-

※それぞれの数値は、各年の「東京の交通事故」（警視庁交通部発行）より参照

※各年の割合については、四捨五入をしているもの

(4) 状況別死傷者数の状況

市内の交通事故による状況別死傷者数の状況について、過去5ヵ年(平成 23～27年)は下表のとおりとなっています。

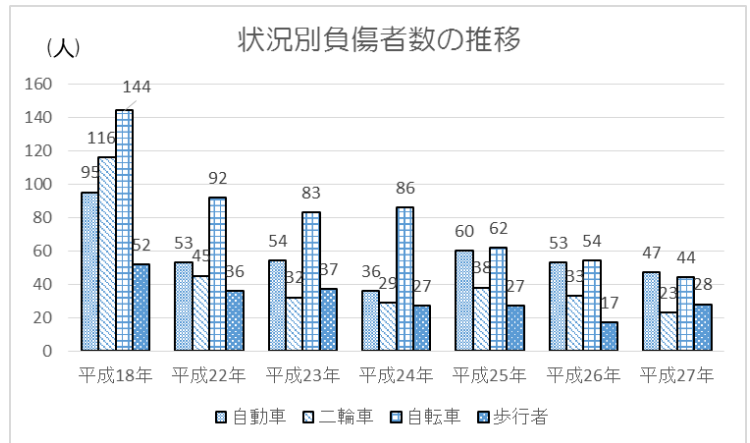
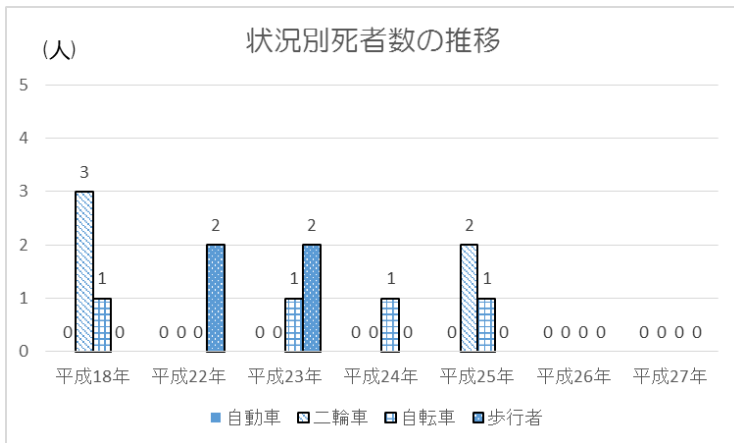
平成 22年と平成 27年の死傷者数の比較では、自動車は 11.3%減少、二輪車は 48.9%減少、自転車は 52.2%減少、歩行者は 26.3%減少となっています。平成 18年と平成 22年の推移に対して、おおむね減少率はあまり上がらなくなってきていますが、死傷者数は継続して減少しています。

■市内の過去5ヵ年等の状況別死傷者数の推移

狛江市		平成 18年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	減少率
自動車	死者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	11.3%
	負傷者数	95人	53人	54人	36人	60人	53人	47人	
二輪車	死者数	3人	0人	0人	0人	2人	0人	0人	48.9%
	負傷者数	116人	45人	32人	29人	38人	33人	23人	
自転車	死者数	1人	0人	1人	1人	1人	0人	0人	52.2%
	負傷者数	144人	92人	83人	86人	62人	54人	44人	
歩行者	死者数	0人	2人	2人	0人	0人	0人	0人	26.3%
	負傷者数	52人	36人	37人	27人	27人	17人	28人	
死者数合計		4人	2人	3人	1人	3人	0人	0人	37.7%
負傷者数合計		407人	226人	206人	178人	187人	157人	142人	

※「減少率」= (「平成 22年の死傷者数」-「平成 27年の死傷者数」) / 「平成 22年の死傷者数」

※数値は、各年の「東京の交通事故」(警視庁交通部発行)より参照



次頁表は状況別の死傷者の構成割合について、東京都全体と狛江市を比較したものです。狛江市における死傷者数については、毎年減少を継続しているところです。また、自動車の死傷者の構成割合は、いずれの年も東京都より低い状況であり、二輪車・自転車・歩行者の死傷者の構成割合はおおむねいずれの年も東京都より高い状況にあります。

■直近5カ年等の状況別死傷者数の推移（東京都・狛江市比較）

東京都		平成 18 年		平成 22 年		平成 23 年		平成 24 年		平成 25 年		平成 26 年		平成 27 年	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
自動車	死者数	29	38.1	16	38.4	18	38.1	27	41.1	23	42.8	21	43.6	13	45.1
	負傷者数	32,159	%	23,946	%	22,203	%	22,605	%	20,954	%	18,888	%	18,066	%
二輪車	死者数	87	21.4	72	17.5	67	16.9	44	15.3	40	15.3	45	14.4	38	14.1
	負傷者数	18,011	%	10,866	%	9,790	%	8,368	%	7,468	%	6,211	%	5,600	%
自転車	死者数	42人	28.6	41	30.8	38	31.8	34	30.1	31	28.7	38	28.1	33	26.4
	負傷者数	24,108	%	19,149	%	18,517	%	16,541	%	14,049	%	12,136	%	10,535	%
歩行者	死者数	105	11.8	86	13.2	92	13.2	78	13.5	74	13.2	68	13.9	77	14.5
	負傷者数	9,839	%	8,167	%	7,630	%	7,323	%	6,384	%	5,977	%	5,730	%
死者数合計		263	-	215	-	215	-	183	-	168	-	172	-	161	-
負傷者数合計		84,117	-	62,128	-	58,140	-	54,837	-	48,855	-	43,212	-	39,931	-

※東京都の数値は、「特別区計」、「市部計」「郡部計」「島部計」「高速隊」の合計

狛江市		平成 18 年		平成 22 年		平成 23 年		平成 24 年		平成 25 年		平成 26 年		平成 27 年	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
自動車	死者数	0	23.1	0	23.2	0	25.8	0	20.1	0	31.6	0	33.8	0	33.1
	負傷者数	95	%	53	%	54	%	36	%	60	%	53	%	47	%
二輪車	死者数	3	28.9	0	19.7	0	15.3	0	16.2	2	21.1	0	21.0	0	16.2
	負傷者数	116	%	45	%	32	%	29	%	38	%	33	%	23	%
自転車	死者数	1	35.3	0	40.4	1	40.2	1	48.6	1	33.2	0	34.4	0	31.0
	負傷者数	144	%	92	%	83	%	86	%	62	%	54	%	44	%
歩行者	死者数	0	12.7	2	16.7	2	18.7	0	15.1	0	14.2	0	10.8	0	19.7
	負傷者数	52	%	36	%	37	%	27	%	27	%	17	%	28	%
死者数合計		4	-	2	-	3	-	1	-	3	-	0	-	0	-
負傷者数合計		407	-	226	-	206	-	178	-	187	-	157	-	142	-

※「歩行者」については、「東京の交通事故」でいう「歩行中」「その他」の合計

※それぞれの数値については、各年の「東京の交通事故」（警視庁交通部発行）より参照

※各年の割合については、四捨五入をしているため、その合計が 100 にならないものがある。

(5) 原因別事故件数の状況

市内の交通事故による原因別死傷者数の状況について、自動車や二輪車側の原因では、前方不注意や安全不確認など基本的な運転行為上の過失が多くみられ、日頃からの安全運転への心がけで防ぐことができるものです。

歩行者に関する事故については、大半は歩行者側に違反がなく巻き込まれたものですが、横断違反などの交通ルールを無視した行動によるものもあることから、事故から身を守るための交通安全教育の更なる推進が必要と考えられます。

また、自転車に関する事故（下記表の事故内の自転車の違反「違反なし」「1当件数の合計）は、過去5カ年（平成23～27年）においてはそれほど減少していません。平成23年の東日本大震災以降の公共交通の影響を受けない自転車の再評価により、自転車利用が増えたことなどが想定されます。改めて、自転車の交通ルールの徹底が必要となります。

■市内の過去5カ年等の原因別の事故件数等の推移

狛江市		平成 18年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	減少率
事故内の 車両の違反	前方不注意	—	35	27	20	26	19	23	34.3%
	安全不確認	—	92	71	41	54	40	36	60.9%
	その他等	—	64	75	81	76	65	48	25.0%
事故内の自 転車の違反	違反なし	—	56	43	52	44	42	28	50.0%
	1当件数	—	13	16	23	15	13	19	▲46.2%
事故内の歩 行者の違反	違反なし	—	24	32	23	22	15	24	0.0%
	その他等	—	12	7	4	5	1	3	75.0%

※「減少率」=（「平成22年の事故件数」－「平成27年の事故件数」）／「平成22年の事故件数」

※「車両の違反」については事故件数、「自転車の違反」のうち「違反なし」と「歩行者の違反」のうち「違反なし」・「その他等」については第1当事者・第2当事者*1の合計数

※「1当」は「第1当事者」のこと

※数値は、各年の「東京の交通事故」（警視庁交通部発行）より参照

※平成18年においては、警視庁における統計表の内訳が異なるため表記していない。

2 交通事故等の今後の見通し

市内の交通事故件数・死傷者数については減少傾向にありますが、年齢別で見ると若年層と高齢者、状況別で見ると自転車と歩行者の死傷者の構成割合が、東京都と比較した場合では高いという傾向が継続しています。全体として交通事故は減少しているものの、高齢化・少子化が今後も進行し、高齢者の割合が高くなることが予想されるため、交通安全対策としては高齢者が関与する交通事故の減少に結び付けることや、次世代を担う子ども世代の事故を未然に防げるよう、ハード面、ソフト面それぞれにおいて対策を講じていくことが重要となっていきます。また、これまでの認識と異なり、自転車が加害者となる事例などもあることから、これまで以上に自転車の安全利用なども推進していく必要があります。

今後の交通安全施策の主な取り組みも、歩行者や高齢者や障がい者、子どもなど交通弱者への配慮をしつつ、人優先の交通社会の形成を推進していくことが大切です。

3 前計画の目標と成果

前計画では目標を「平成 27 年度までに年間の交通事故死者数ゼロにすることと年間の交通事故件数の減少を目指します。」と定め、交通事故件数が前計画期間の前年（平成 22 年）の 211 件に対して前計画最終年（平成 27 年）は 128 件と 39.3%減少することができました。交通事故死者数は年ごとに増減はあるものの、平成 26 年、平成 27 年と連続でゼロを達成することができ、一定の成果と目標達成ができたものと考えます。